

# 秋元司被災地レポート(岩手県)

〈期間〉

4月1日～2日

〈場所〉

岩手県盛岡市、大船渡市

〈目的〉

秋元司盛岡後援会および被災地への救援物資届け。

市町村からの要望ヒヤリング。

被害状況の視察。



## ●4月1日(1日目) 場所:岩手県盛岡市

### ・秋元司盛岡後援会への支援物資届け

早朝、東京の後援会企業よりトラック(4トンロング)をお借りし、各地区後援会・企業から集めた支援物資を東京後援会事務所にて詰め込む。また、自由民主党災害対策本部、日本チェーンドラッグストア協会からも物資を提供して頂き、出発。

東京より約600kmを8時間かけ、盛岡市内へ到着。深夜にもかかわらず、後援会の皆さんがお出迎えをしてくれ、到着後すぐに積荷を降ろし、仕分け作業に入る。それは被災地にはまだまだモノが足りなく、物資が届くのを心待ちにしているということを感じて改める。



## ●4月2日(2日目) 場所:岩手県大船渡市

### ・支援物資届け

#### 大船渡市立立根小学校(支援物資保管所)

津波の被害がひどかった大船渡市へ向け、支援物資を運ぶ。

市内からは大船渡市議会議員の船野あきら先生と合流し、物資を保管・管理している大船渡市立立根小学校に向かう。体育館には我々が持参した物資以外にも、大量の支援物資が保管されていた。しかし、避難されている方の数も多いため、すぐになくなってしまおうとのこと。



### ・大船渡市役所より要望ヒヤリング

市内の高台に位置し、津波の被害からは免れた大船渡市役所を訪問。生活福祉部保健福祉課の志田俊一課長と面談をし、被害状況ならびに要望のヒヤリングをおこなう。

被害者の捜索、瓦礫の撤去、避難民への食糧や物資の配給を引き続き行うとともに、仮設住宅の設置や復興に向けて、職員ならびにボランティアスタッフは全力で取り組んでいくので、是非とも国の引き続きの支援をお願いしたいとのこと。

また、震災から時間が経過するのとともに、避難民たちのメンタル面でのケアが必要になってきており、震災で受けた恐怖から、夜泣きをする子どもたちや不眠症に悩まされる方が増え、結果として病気になったり、苛立ちから大声を張り上げたりする方が増えているとのこと。こういった2次、3次被害も、これから対処していかなければならない課題である。



## ・大船渡市被災状況視察

沿岸から1 km程離れたあたりに入ると、そこは辺り一面、大量に積み上げられたゴミの山のような惨状であった。建物はなぎ倒され、車は潰された空き缶のようにペシャンコになっており、もともとあった街並みを想像する事が出来ない状況である。また漁港という事もあり、魚介類や燃料の匂いが鼻をつき、風が吹けば瓦礫から粉塵が舞うため、マスクなしではいられない。

自衛隊や民間の重機が瓦礫の撤去作業を行っており、家を失った方々が変わり果てた家から荷物を取り出している姿を多く目撃した。

被災地はまだまだ寒く、雪が舞い、夜には氷点下に達するため、暖をとらなければならないが、被災地付近のコンビニエンスストアでは通常の倍近くの値段でカイロを販売していた。確かにスーパーやコンビニにはほとんどモノがない現状ではあるが、こういった地元企業に対し、行政は便乗値上げをしないよう働きかけていく必要があるかもしれない。

